

社会教育・文化振興課からお知らせ 佐川美術館 企画展

たかやまたつ お
高山辰雄展

日本画家・高山 辰雄(1912~2007)は、人間の精神性に触れるような画風に色彩感覚によって独特な世界観を表現し、それらの作品はいまなお高い評価を受け続けています。本展では70年以上にわたる画業の中から《聖家族》を一つの頂点として、《聖家族》制作に至るまでの人物像を中心に約90作品を展覧します。滋賀県では初の開催となります。

時 9月23日(月・休)までの

午前9時30分~午後5時(入館:午後4時30分まで)

¥ 一般1,200円、

高大生800円(学生証要。専門学校・専修学校含む)

※中学生以下(保護者同伴要)、障害者手帳をお持ちの人(手帳要)と付添者(1人)は無料

他 事前にウェブ予約・ネット決済で入館チケットを購入してください。詳しくは、佐川美術館ホームページをご覧ください。

所・ 佐川美術館

☎(585)7800 FAX(585)7810

※休館日:月曜日(祝・休日の場合は翌日)



佐川美術館
ホームページ

かなもり ながちか 金森 長近公にゆかりのある 4市による市民交流ツアー

戦国武将・金森 長近公にゆかりのある4市(守山市、福井県大野市、岐阜県高山市、岐阜県美濃市)による市民交流事業として、各市の市民が大野市を訪れ、長近公の事績を巡るツアーを実施します。

対象や内容など詳しくは、市ホームページをご覧ください。

時 10月26日(土)~27日(日)

所 福井県大野市(市役所から現地までバス移動)

対 市内在住の20歳以上で、交流事業やワークショップに継続的に参加でき、電子メールで連絡が取れる人

定 10人(応募多数の場合は抽選)

¥ 1万2,000円

申 8月14日(水)までに市ホームページ内の申込フォームまたは直接、下記へ申し込み。結果は、当選者のみ8月下旬にメールで通知。

他 ・10月2日(水)、11月27日(水)の計2回開催するワークショップへの参加要
・参加料は10月2日に徴収

関 企画政策課

☎・☎(582)1162 FAX(582)0539



ホームページ



一本の筆で描く

佐川美術館「アートコラム」83

学芸員 佐川美術館
栗田 頌子



画家にとつて筆は、自らの表現を支える命ともいえる道具です。一概に筆といっても、形や大きさ、材質などの種類が豊富で、画家は使用する絵具や描きたいものによって筆を使い分けています。今回は、佐川美術館で開催中の展覧会で取り上げられている日本画家・高山辰雄(1912~2007)の筆にまつわるエピソードを紹介します。

高山は大分県に生まれ、画家を目指して東京美術学校(現・東京藝術大学)に進学し、卒業後も東京で画家として活動していました。しかし昭和20(1945)年の東京大空襲で自宅が被災してしまいます。辺り一面が焼け野原の中、悲しみに暮れていた高山は、がれきの中から奇跡的に一本の筆を見つけ出します。それは美術学校の卒業記念でもらった「長流」という種類の筆でした。希望の象徴とも思えるこの一本の筆を手に制作を再開した高山は、苦しい戦後を日本画家として生き抜いていきます。

「長流」は穂先が長くて墨含みが良く、水墨画に使用される代表的な絵筆です。高山は絵具が画面の上に筆で触れていく感覚を大事にしていました。どんな大作でも一本の「長流」で仕上げするため、筆を紙に軽くたたきつけながら着彩する独特なタッチも相まり、作品が仕上がるとは新品だった筆の筆先が割れて使えなくなったといえます。

高山の作品を近くで見ると、単色に見える部分でもさまざまな色が絡み合い、複雑な色を形成していることがわかります。一本の筆だけで独自の世界観を描き出した高山の繊細な筆遣いを感じてみてください。

※開館情報は、佐川美術館ホームページでご確認いただくか、電話[(585)7800]でお問い合わせください。